

## 枯死した相生の松

「土曜寸言」020316

五代目古今亭志ん生得意の  
マクラから始めよう。

「うんざりする程長いこと夫婦を  
やっている男女の会話。

亭主：「オイ！」

女房：「なんでえ、ヤイ！」

「オイ」と呼び、「ヤイ」と応えて  
三十年、これを「ヤイオイ(相生)  
の松」と言うんでございます。」(爆笑)

筆者も、ご多分にもれず老妻と  
「相生の松」をやっている。三十  
年も夫婦をやっていれば、「以心  
伝心」、「阿吽の呼吸」、言葉な  
ど一語として発しなくても何でも分  
かり合える。ここまできるとは風雪  
に耐えた長い歴史があつたのだこ  
なのだから「ヤイオイ」はまことにめ  
でたいのである。

ところで、この十年、この国の  
何もかもがうまくいかない。「政治  
は二流、経済は一流」と言われた  
政治は今も二流だが、肝心の経  
済は三流に転落した。どうしてこう  
なってしまったのだろうか。

実は、この「ヤイオイ」ならぬ「以  
心伝心」に原因があるらしいので  
ある。

十年前といえ、冷戦が終わ  
った頃である。東西間の壁が消え  
て、世界はほゞ二倍の広さになっ  
た。人々の移動も経済取引の機  
会も増えた。面倒な交渉ごとも含  
むが、国家間の組合わせの増加  
によってコミュニケーションのチャン  
スは何十倍増か分からない。同  
時に、情報ネットワークが猛烈な  
勢いで広がり始めた。機会が倍

加したのだ。

一方、この国では冷戦期に、  
「フルセット産業国家」といって、  
一次産業以外の何もかも身内だ  
けで製造できる完備な体制を作  
り上げた。大企業は社内または  
資本系列で、中小企業は親企  
業との間で阿吽の呼吸で取引を  
してきた。金融機関は護送船団  
を編成して、摩擦を回避した。こ  
ういう稲作民族的システムを「範囲  
の経済」という。

他方、世界中から最良の経営  
資源を見つけ、それを「言を尽くし  
た」交渉によって手に入れるとい  
うことがIT技術のおかげでできる。  
こういう狩猟民族的システムを「ネ  
ットワークの経済」という。この国  
の不振は、すなわち「ネットワーク  
の経済」への不適應の為なのであ  
る。

いま、県内の中小企業は受注  
の激減という最悪の不況の中に  
いる。相生の仲だった親企業が  
国外に進出して発注してくれなく  
なったためだ。

「ネットワークの経済」では、市  
場に招かれるのはナンバーワンの  
得意技がある場合に限られる。  
海外に出て行った親企業から発  
注が無いということは、ナンバ  
ーワンではなかったことの証左であ  
る。

どうも、相生の松は松食い虫に  
食われ、枯死してしまったらしい。  
この不況は、「ヤイオイ」の「以心  
伝心」に頼り過ぎてコミュニケーションを怠ってきた罰かも知れない。